

# 巣立ちプログラムにおける「短期インターンシップ」の実践

山野明美<sup>1)</sup>・成行義文<sup>2)</sup>・平井松午<sup>3)</sup>・大淵朗<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>徳島大学キャリア支援センター, <sup>2)</sup>徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部,

<sup>3)</sup>徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

## 1. はじめに

徳島大学では平成22年4月の文部科学省大学設置基準の改定に伴い、4年一貫のキャリア教育プログラム(巣立ちプログラム)を同年4月から実施している<sup>1)</sup>。平成24年度からは、産業界等と緊密な連携のもとに就業力育成の観点から大学のキャリア教育を点検し、産業界等のニーズに応える人材養成を推進していくことを目的とした「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」を実施している。これは、「産業界等(地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体)が大学に期待する教育内容」と「大学が重視している教育内容」の乖離によるミスマッチを解消するための取り組みである<sup>2)</sup>。

平成23年4月から始まった「巣立ちプログラム」は3年目に入り、平成25年度には新たに3年生を対象とした「短期インターンシップ」(前期)が開講され、2年生向けの「キャリアプランII」(後期)でも「PBL型学習」が一部導入される。本報告では、新規開講の「短期インターンシップ」の実施状況を報告するとともに、各種アンケート調査結果ならびに学生の報告・レポート等の分析により浮かび上がった今後の課題等について述べる。

## 2. 「短期インターンシップ」の授業方法

「短期インターンシップ」の授業方法を、表1に示す。

## 3. 「短期インターンシップ」実施内容の工夫点

### 1) 履修者の決定法

「短期インターンシップ」は、2単位の選択必修の授業として行われている。本年度は、総合科学部および工学部の合同クラスとして月・水曜日に2クラスを開講

し、総合科学部および工学部の3年生328名(総合科学部74名、工学部254名)が受講した。表2に示すように、授業は事前学習(8コマ)および学外研修からなる。

### 2) 事前学習での特徴的な取り組み

事前学習では、ビジネスマナーの基本として、毎回始めと終わりに「分離礼」を取り入れ、丁寧な挨拶とお辞儀の仕方を定着させた。また、インターンシッ

表1 「短期インターンシップ」の授業方法

項目	授業内容
授業目的	①働くことの意義を実感する。 ②学外研修において実社会の現状を把握する。 ③職場でのビジネス・コミュニケーション及びマナーの重要性を認識する。 ④仕事に対する責任感と緊張感を体験する。
授業概要	①インターンシップとは、企業・行政機関・公益法人・団体等における実習・研修的な就業体験を通じて、自らの将来計画におけるキャリア・デザインについて考える授業である。 ②前半では、学外研修の準備としてのコミュニケーション・マナー、守秘義務等法律知識等を修得する。また、各種企業からゲストスピーカーを招聘し、社会人・企業人として望まれる人材ならびに学生の見方について学ぶ。 ③後半では、7月～9月の間に、各自5日間程度の学外研修を受ける。 ④社会の一員としてのマナーや責任感ならびに厳しさを体験することにより、自己啓発の機会を得る。
履修要件	①キャリアプラン入門I・IIを履修していること。(編入生は除外) ②事前学習(1～8回)を受講しなければ学外研修を受けることができない。 ③インターンシップ開始までに賠償責任保険等に加入し提出書類に記載できる者。 ④「働く」ことに対し真摯な態度で臨める者。
履修上の注意	①インターンシップ先は、本学キャリア支援センター紹介、学部・学科の紹介あるいは自由応募で自ら申し込むこととする。応募者多数の企業・団体については、第3希望まで申し込み、その後抽選とする。 ②事前学習の出席・成績などが水準を満たしていない場合には、後半の学外研修が受けられないこともあるので注意すること。 ③学外研修の報告書は終了後2週間以内にポートフォリオに入力すること。
到達目標	①事前学習により、社会人として必要なマナーとビジネス・コミュニケーションを理解し、社会人・職業人として相応しい行動がとれる。 ②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。
成績評価	事前学習(1～8回)の出席が2/3未満の場合に成績評価の対象にならない。到達目標の達成度を、小テスト(30点):レポート(30点):報告書(40点)により評価する。なお、学外研修先の評価も参考とする。合計(100点満点)が60点以上を合格とする。

表2 「短期インターンシップ」の事前学習

回数	授業内容
1	ガイダンス：インターンシップ全体の流れと受け入れ企業の概要、参加の意義と心構え
2	事前学習：インターンシップ受入団体講演（1）
3	事前学習：インターンシップ受入団体講演（2）
4	事前学習：社会人としての必要な法律知識、守秘義務、個人情報保護法
5	事前学習：社会人としての必要なビジネス・マナー（小テスト）
6	事前学習：インターンシップ申し込み等の文章指導
7	事前学習：参加のための各種必要書類の作成
8	事前学習：受入先へのお礼状や報告書の作成法指導（レポート）

ブ受入8団体の企業・官公庁から1名ずつの合計8名（4名/回×2回）のパネラーを招聘してパネルディスカッションを行った。さらに、インターンシップ先での必要な法律知識「守秘義務・個人情報保護法」に関する講演を弁護士に依頼した。

### 3) レポート課題の工夫

インターンシップの意義を考える契機となるようなレポート課題を設定した。すなわち、①インターンシップに参加する際には、何を学びたいのか、何を中心課題とするのか等、具体的な視点や課題を持つこと、②「知っている」、「わかる」から「できる」姿勢で臨むこと、③「疑問を持ち考え抜く力」を身につけさせ、課題発見力・計画力・想像力などの能力向上に役立つこと、等に主眼を置いた。このレポートにより、事前に学生が「短期インターンシップ」を通じて得たいものは何か、そして、就職したい企業、希望の職種、必要な能力は何かを、インターンシップ実習を通して探る機会とした。

4) 「インターンシップハンドブック」の作成と活用『インターンシップハンドブック』<sup>3)</sup>を受講者全員に配付し、「事務手続の流れ」および「インターンシップ実践編」として仕事の基本であるルール・敬語表現・ビジネスマナー等について講義した。

## 4. インターンシップの実施方法

学外研修先は、キャリア支援センター紹介先、学科紹介先あるいは自由応募先のいずれかとした。なお、キャリア支援センター紹介先から選ぶ場合は、第3希望まで募るが、抽選となるので必ずしも希望通りにならないことを事前に学生へ伝えておいた。学外研修では日誌をポートフォリオの授業コメント欄に記載して

おき、それを参考に報告書を完成させるようにした。尚、複数の企業・機関でインターンシップを実施した学生には1カ所について報告させた。また、学外研修期間は、原則として合計5日間以上とするが、期間が合計4日間の場合は、プレゼン発表を課した。行き先の選択に際して学外研修の日程と集中講義の日程が重ならないように注意を喚起した。

## 5. 「短期インターンシップ」の成績評価

成績評価は、表1に示したように法律知識問題の小テスト、レポート課題および学外研修報告書をもとに行った。インターンシップ受け入れ先による評価は、企業・機関による基準に差があることを勘案して参考資料に留めた。

## 6. 今後の課題

- 1) 抽選結果によっては、学生の希望と研修先とのマッチングが必ずしも図れていない。
- 2) 研修内容がアルバイト的業務であった場合、インターンシップ実習に対する満足度を下げている傾向がある。インターンシップ受入れ側の実習内容の充実やルール作りが必要になると考えられる。
- 3) 産官学が一体となったより効果的なインターンシップモデルの構築が求められる。
- 4) インターンシップへの希望者数は増えている。地元経済団体や自治体との連携をこれまで以上に拡大・強化し、受入企業・機関の増加を図ることが必要となる。  
なお、各種アンケート調査結果ならびに報告の分析等はカンファレンス当日にポスターにて発表する予定である。

## 謝辞

徳島大学学務部キャリア支援課の職員の方々には、授業の運営並びにデータ収集整理等に関して大変お世話になりました。ここに記して深く感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 田中徳一、成行義文、平井松午、山野明美：「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラムとそれに基づく初年次キャリア教育の実践」大学教育研究ジャーナル第9号、pp.141-151、2012年。
- 2) 山野明美、平井松午、成行義文、田中徳一：「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業の展開」大学教育研究ジャーナル第10号、pp.80-88、2013年。
- 3) 徳島大学就職支援センター編：インターンシップハンドブック、2012年。